

内容	詳細	時間	経過
準備	ハンドアウト		
挨拶・ レクチャー	目標設定、停滞、誤解 超鑑賞などについて 言葉を使わないことについて 鑑賞のプロセスを俯瞰する リンク先の内容を伝える： https://note.com/yusatoweb/n/n588850695ac9 https://www.yusatoweb.com/3kokoroe ハンドアウト「超鑑賞など」「スケッチの仕方」	15	
移動	展示会場へ移動	5	20
鑑賞① 鑑賞 スケッチ	「鑑賞スケッチ」 バインダー・紙・鉛筆を渡す。 *人数が多いため、3作品に別れて実施 作品をよくみて、気になる部分をきっかけに模写する。拡大縮小任意。 正確に描く、絵を完成させるのが目的ではなく、 自身が気になった部分を確認するために描く。また描きながらよく見る。 言葉を使用することはできない。消しゴムは使用できない のちに対話があり、自身の鑑賞の過程を説明する必要を伝える 3分を3セット繰り返す。1セットごとに異なった視点で、3枚の絵を描く。	15	30
移動	会議室へ移動	5	35
対話	ペアになり、「聞き手」「話し手」に分かれる。 中学生の参加が多かったため、できるだけ大人と中学生がペアになるように。 「話し手」は自分の書いたスケッチを卓上に並べる。 「聞き手」はスケッチを見て、気になるところについてを「話し手」に ・これはなんですか？ ・なぜ～なんですか？（理由を聞く） ・他に何に注目しましたか？ などと質問する。「話し手」はその質問に答える。←VTSを伝授する 「聞き手」は、「話し手」の話をよく聞く。自分の意見は話せない。 「聞き手」が話を主導する。 7分目安で役を交代する。*録音する	25	60
休憩		5	65
作品を拡張 する	「作品を拡張して描く」 バインダー・紙・鉛筆を渡す。 これまでの過程でをヒントに、想起、想像した 「画面内に描かれているもの以外」描き、鑑賞作品を拡張した絵を描く。 人物、時間、画面外の環境、拡大と縮小、イメージ、概念、抽象的な図形など、 描く内容は自由。 「画面内に描かれているもの以外」を描くために、 既に描かれているものを描いても良い。 画面内に言葉を使用せず、気になった内容が伝わる様に意識する。 1人3枚を目安とする。	15	80
作品鑑賞	3人程度のチームに分かれ、それぞれが製作した作品を鑑賞する。 VTSを意識しつつ、自由に対話する。 1作品5分程度。	20	85

総括	活動をまとめる	5	90
----	---------	---	----

<運営に準備してもらいたいもの>

- ・鑑賞作品のA4サイズコピー 人数分 (対話のときに作品情報を共有しやすい)
- ・プロジェクターセットか、ホワイトボードセットのどちらか